令和元年度 市民活動応援補助金 活動発表資料

【市民提案型】 京都3D データ活用研究会

活動事業名 3D データの普及活動

活動内容

① 団体紹介

近年3D データを扱うことが手軽になって、3D プリンターも利用しやすくなった現状から、多くの人が3D データを利用して好きなもの自分で作れる人を増やすことを目指して3D データの普及活動を行っています。長岡京市では平成 29 年に3D プリンターが寄贈され、誰でも手軽に使えるようになっています。そのお手伝いもしています。

② 採択事業の課題意識・対象者・目標など

3D プリンターがバンビオI階に置かれ、多くの方が興味を持ってくれています。今までに開催した入門講座には多くの参加がありましたが、3D プリンターの稼働率はまだ低いです。それは、多くの人が何を作っていいかわからないというところで止まっているからです。そこで、具体的にルアーを作り、実際に釣りをしてもらうことで試行錯誤できる事業を申請しました。今回は3D プリンターでできたものを、色を付けて作品として仕上げるので、3D プリンターを使っているが仕上げの方法を知りたい方までを対象にしています。目的を「3D データの取り扱える人を増やすこと」、目標を「3D プリンター稼働率の向上と、団体会員数の増加」としました。

③ 実際に事業を行ってどうだったか、補助金をどう活用したか、成果や今後の見通しなど

3D データを自分で作れるようにと講座を行い、その後プリンターへの理解を深めるため 3D プリンターの組み立て・出力講座も行いました。最後に、ルアーの3D データを作製してもらい、3D プリンターで出力し、コーティングや色付けなどの仕上げをってもらう講座を開催。参加者は、延べ15名（定員述べ40人）。参加者が想定より少なかったです。それは、宣伝の書き方で連続講座だと勘違いをされて参加が難しいと思われた方もいたようです。今回の事業を通して、3D データの利用が、当初考えていた「誰でも気軽に」からは遠く、まだまだ難しく思われていることがわかりました。これからも、誰でも気軽に使えることを普及する活動を地道におこなっていきたいと思っています。